

『【解雇通告】エリート上司の冷徹な救済
～無能な君に与えられる、唯一の交渉権～』

サンプル(一部抜粋)

「...謝って済む段階はとうに過ぎてる。君はクビだ。」

(数秒の沈黙)

「...なんでもするから撤回してくれって？ なら、今日はテストしてやる。
その覚悟がどの程度のものなのか...な。」

(数歩の足音、デスクを指先でトントンと叩く音)

「まずは自分で自分のスカートを捲ってみなさい。
...どうしてって？ この口で君を『精査』してやるんだよ。」

「...さて、あと10秒か。だが君に悲報だ。
(耳元で、低い声で) ビジネスの世界には『急な仕様変更』がつきものでね。」

(急に激しく突く音、デスクが大きく揺れる音)

「...っ！ ちょうど一分か。まだ余裕は...って聞くまでもないか。
自分から腰を動かして催促するなんて。」

「本当に詰めが甘い。俺の言葉を信用するなんて馬鹿だな。」

「...イかせてください？
はは(冷たい笑い)、嫌だ。」

「もっともっと君が狂うまで.....イかせてあげないよ。」

「君の評価は、俺がつけるんだから.....」